



雪若丸情報

第4号

庄内総合支庁農業技術普及課 (TEL 0235-64-2103)

！！穂肥診断を行い、適期適量の穂肥を！！

1. 生育状況（7月1日現在）

雪若丸の生育状況（鶴岡市下小中）

指標に比べて、草丈は短く、葉数は並、茎数は多く、葉色はやや濃い状況です。

予想される出穂期は8月2日(平年より1日早い)、穂肥の適期(出穂25日前)は7月8日の見込みです*。

	草丈 (cm)	茎数 (本/m)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
本年	43.3	761	9.6	44.9
指標	46.0	670	9.7	41.9
指標比差	94	114	-0.1	+3.0

*作柄診断圃(鶴岡市下小中、5月15日移植)：7月1日現在の幼穂の発育状況より予想

2. 穂肥診断のポイント ～生育診断と幼穂確認で適期・適量の穂肥～

- 生育が適正範囲の場合、出穂25日前に、窒素成分1.5kg/10aを施用します。
- 6月30日（葉数は9.5前後）の生育量に基づいて、穂肥の時期・量をコントロールしましょう。

生育量別の穂肥の目安

生育量	茎数		葉色 (SPAD)	施用時期と窒素分量
	坪70株	坪60株		
生育不足	26本/株未満	31本/株未満	40未満	出穂30日前、1.5kg/10a
適正生育	26～35本/株	31～41本/株	40～44	出穂25日前、1.5kg/10a
生育過剰	35本/株以上	41本/株以上	44以上	出穂25日前、1.0kg/10a

※地力の低い圃場では窒素成分2.0kg/10aを上限として、早目に追肥します。

※穂肥前に補完追肥を行った場合は、補完追肥した量を、穂肥の量から減肥します。

※基肥、補完追肥、穂肥の合計量は、窒素成分8kg/10a以内とします。

- 幼穂を確認して、出穂前日数を把握し、適期に追肥しましょう。

	幼穂長	作柄診断圃の予想出穂期 (8月2日出穂の場合)
出穂前30日	0.2 mm	7月3日
出穂前25日	1.0～1.5 mm	7月8日

3. 中干し後から出穂期の水管理～間断かん水で健全な根の発達を促進～

- 中干し終了後は、走り水を行って足跡に水が溜まる程度とし、徐々に間断かん水（2日湛水・2～3日落水）に移りましょう。出穂するまでは間断かん水を続け、土壌を酸化的にし、根の発達を促します。
- 低温やフェーン現象が予想される場合には、湛水して稲を保護しましょう。

**斑点米カメムシ類は「やや多い」予想です。畦畔の草刈りを徹底しましょう！
適度な水分補給と休憩で熱中症に注意しましょう！**